

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

仁方中学校区 校番 1 学校名 呉市立仁方中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	急速に変化する技術やグローバル化、社会の複雑化に対応するため、小中学校ともに将来を見据えたミッションにとても共感します。そのような激変する社会の中でも必要と思われる、自ら考える力や、社会の中での協働力やコミュニケーション能力に対して、小中一貫で注視していることを、評価します。また、自分自身を形成するこれからにおいて、何より自分自身を認め、好きになる、自信を持つことが非常に重要です。自己肯定感、幸福度への記載もしっかりされており、設定内容として適切であると考えます。
目標達成のための方策の適切さ	A	昨年度の結果の分析及び今後の改善策を踏まえ、課題を詳細に分析した上で、生徒の主体的な学びの実現に向けた方策が見直されています。小中共通の研究主題に掲げられている「生活をよりよくする」ための「身近な生活と関連付けた課題設定」や「週末課題」、「補充学習」等を実践されることにより、確かな学力の定着に繋がることを期待します。仁方中学校の喫緊の課題である不登校生徒の支援がNSR(SSR)を核として継続して方策に盛り込まれています。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	生徒・保護者アンケート等を活用しながら、自己評価の結果の分析が丁寧に整理され、今後の改善策が詳細に導き出されています。生徒、教職員のアンケートの数値を比較、クロス検討など、複数の数字から様々な課題や成果を導き出せていると感じます。「たくましい体」についての「目標値」と「結果の分析」の比較対象が統一されれば、より確かな内容になると思います。
今後の改善策(案)の適切さ	A	大きな課題と思われる点については、多くの施策が講じられています。また、成果が出ているところは、しっかりといい事業を継続、発展させるように取り組まれており、選択と集中ができていることは、実行力としてとても信頼がおけます。また、上記にも記述しましたが、分析がしっかりとされているので、ひとつの施策の内容においても説得力があります。自校の児童生徒の状況、そして教職員のリソースをしっかりと把握されており、適切であると考えます。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・4年目となる生徒一人一台タブレット端末が貸与され、ICTによる更なる学力向上に大いに期待したい。 ・「あいさつや返事、号令など声を出すことが必要になる場面に苦手意識がある」と「今後の改善策(案)」に記載があったが、「挨拶」は、人として生きる上での共存の基本であり、相手に対する礼儀であり、自分を知ってもらうための一番の方途であると思う。 ・激変する社会において、教育現場においても時代とともにやるべきこと、やらなければいけないことが変化していくことと存じます。教職員の皆さまの負担も質・量ともに変化すると思いますが、保護者や地域の皆さんと協力して、これからも引き続き、子どもたちの健全な育ちを守っていきましょう。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活場面や他教科等との関連を図った単元開発によって、主体的な学びを促す。また、思考力・判断力・表現力を高めるための手立てとして、思考を促す発問の工夫をする。 ・行事や縦割り活動等を通して自己肯定感や集団適応感の向上を図る。 ・生徒の学びが深まる姿の実現に向けてデジタル機器を有効活用する。 ・生徒会を中心に挨拶運動の取組を継続して行い、豊かな心を育成する。 ・呉チャレンジマッチの取組を進め、体力向上に努める。 ・学校楽しい一とを活用しながら、生徒の心に寄り添った教育相談体制を推進する。 ・時間外勤務の削減目標達成のため、昨年度から導入された統合型校務支援システムを有効活用する。
--------------------	--